

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4570102956		
法人名	有限会社サカイコーポレーション		
事業所名	グループホーム楓	ユニット名	本館
所在地	宮崎県宮崎市大字郡司分甲1570番地1		
自己評価作成日	令和2年11月20日	評価結果市町村受理日	令和3年2月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action_kouhyou_pref_search_list_list=true

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	令和2年12月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・職員が利用者の隣に座ってゆっくり話せる時間があり、施設にはゆったりとした時間が流れている。
- ・利用者一人ひとりが日々過ごす中で出来るだけ不安なく楽しんで過ごしていただけるよう職員で連携を図りながら安心安全に努めている。
- ・利用者と共に家事をする等利用者が活躍できる機会を大事にし、利用者職員が持ちつ持たれつの関係で日々の共同生活を共に良くしていこうと取り組んでいる。
- ・コロナウイルス感染拡大防止策を考慮しつつ、いま自分たちにできることを日々模索している。
- ・利用者さんの残存機能を出来るだけ維持できるように支援している。
- ・職員が常に笑顔で接することを心がけている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療機関や商業施設などが近隣にあり、交通機関の整備された地区に施設が所在している。利用者の各々の残存機能や思いを十分に反映できるよう個別支援に注力し、ホームでの日常生活を送れるように支援している。また、会話や声かけをゆっくりとすることで、心身の状況把握に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	本館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を職員の目につきやすい場所に設置し、自身のケアに迷った時にはいつでも振り返れるようにしている。全体会等では全職員で理念唱和をすることで、理念に沿ったケアができるよう意識づけしている。	玄関やリビングなど、職員や誰もが目につきやすい場所に運営理念を掲げ、また全職員で理念を唱和するなど、理念を意識したケアに取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	例年地域の夏祭りでは子供神輿の休憩所として施設を提供し、なじみの関係となっている。避難訓練時に地元消防団の参加、施設行事には地域のボランティアに来ていただく等、密な関係を築けている。	運営推進会議の委員でもある地域関係者が窓口となって地元との交流に取り組んでいる。自治会活動への参加・協力、避難訓練への地元消防団からの協力などがある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	高校・介護実習施設などの受入。高校職場体験の受け入れは新型コロナウイルス対策で中止となる。地域に向けては認知症サポーター養成講座等を通して、認知症の方の支援についての啓発を行っている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	概ね2か月に1度開催し利用者の家族や地域住民の代表者、行政の代表者等に施設での取組等を報告し、意見交換を行いサービスの向上に努めている。本年度は感染リスクを鑑み、開催を控え、文書での取り組み報告をしている。	運営推進会議には地元に住む委員の参加があり、意見や提案を話し合い、それらを運営に生かすよう取り組んでいる。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険の解釈等で疑問がある時には直接介護保険課へ赴き相談している。直面する課題の対応で判断に悩む時は相談し、また、管理者が認知症ネットワークの推進委員をしており、市の施策等の話し合いに参加している。	市役所の担当課には、日頃からできるだけ足を運び直接相談したり、事業所の取組状況を伝えるなど、担当者とも顔なじみの関係を築けるように努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	概ね2か月に1度身体拘束等適正化検討委員会を開催し、意見交換をしている。その結果を全体会などで報告し、サービスの向上に繋げている。	運営推進会議では身体拘束等適正化検討委員会を併せて行っている。また職員の勉強会では身体拘束やグレーゾーンの不適切ケアを話題に取り上げ、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修へ参加し、定期的に内部研修で高齢者虐待の勉強会を開催している。職員には「自分がされて嫌な事はしない」をモットーに不適切なケアがないかを日頃から振り返りをしている。			

自己	外部	項目	自己評価	本館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度や生活保護制度など事業所でも制度利用をされている利用者がある為、権利擁護がどのような制度であるか説明して、職員が理解を深められるように努めている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	問合せの時から契約時まで何度も利用者、ご家族とお会いし、運営、サービスについて説明し、納得をいただいてから契約をしている。疑問や質問などがあつた際には、いつでも説明できるようにしている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	新型コロナウイルスの為面会制限をかけている。ご家族の来所の機会は減っている。電話や本人の私物を持ってきて頂いた際には近況などを伝え、コロナ禍以前と変わらずご家族の意見を聞けるように支援している。	家族会が組織され、事業所の幹部職員も参加して年1回総会を開催している。また家族等から意見を聞く機会を大事にし、ケアプランの見直しやサービスの向上に反映させるよう取り組んでいる。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月開催される会議や研修に必ず代表者が参加し直接職員の意見を聞き職場環境の改善等に反映させている。また、職場で代表者と接する機会が多い為、日頃から相談できる関係づくりができています。	代表者、管理者とも日頃から職員と言葉を交わし、意見の把握に努めている。特に職員が主体的に行う行事や担当業務について意見を聞き、運営に反映させるよう取り組んでいる。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得や外部研修の参加を推進し職員が向上心を持てるようなサポートを実施している。また職務に対する努力や積極性を考慮して処遇改善加算を支給し職員のやりがいを感じられる体制をとっている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の内部研修において職員一人ひとりに勉強会を開催してもらい認知症ケアの技術や知識の向上を図っている。またその他外部研修で得た学びを全職員に展開し周知・理解を深め職員の資質向上に努めている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームや病院等関連する同業者と各種協議会等に参加し交流することでネットワークを構築している。そこで得た情報やネットワークをサービスの質の向上に繋げている。			

自己	外部	項目	自己評価	本館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員は本人の気持ちや不安が受け止められるよう穏やかな雰囲気づくりを意識している。見学時からご利用に至るまでに本人と話し合う機会を持ち、個別性や要望を確認した上でサービスの導入をしている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談から施設利用まで何度も家族とお会いする機会を持ち、家族の苦労、これからの希望、家族からの要望を確認した上で家族の不安が軽減するように支援している。家族との信頼関係が構築できるように家族の声に耳を傾けるように努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に本人家族の実情や要望をもとに事業所としてできる対応を説明している。相談内容によっては、他事業所や他サービスを紹介する等、本人家族の要望に即したサービスが受けられるように支援している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者本人と寄り添う事でお互い安心した環境づくりに努めている。またそれぞれの利用者の個性を深く理解することで施設生活で能力を発揮してもらい生きがいを感じ持ちつ持たれつの関係性を築いている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と密にご本人の生活状況などの報告・連絡・相談をさせて頂いている。出来る限り、穏やかな気持ちで過ごして頂けるよう、ご家族と共に支え合う関係性づくりに努めている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の為に、面会制限をかけており、ご家族や知人と直接会えない状況ではあるが、オンライン通話を活用し、ご家族や遠方の親族とも関係性を継続できるように支援している。	オンライン通話の活用は日曜日に1人3分間ずつであるが、面会制限かであっても顔を見て話しができ、特に遠方の家族等からは喜ばれている。また定期的に新聞を発行するなど、関係継続の支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は、利用者同士の関係性を把握し、利用者同士が良好な人間関係を築け気持ち共有できる場面をつくったり、一緒にくつろげる空間づくりに配慮している。			

自己	外部	項目	自己評価	本館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後も本人の状況を確認し、場合によってはケアの相談を行っている。退所後も利用された本人や家族の方々の関係性を維持し途切れない関係性をつくれるように努めている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の言動に注目し、可能である限り本人の希望・意向を本人本位の視点で尊重している。また普段から利用者とのコミュニケーションを取り何でも言える環境づくりに努めている。	利用者の言動や表情等に注目して、本人の思いや気持ちをくみ取るようにし、職員間では日々情報を共有するよう努めている。記録の書き方についても内部研修を重ねている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族の会話の中から生活歴等を出来るだけ把握しようと努めている。本人が今まで生きてきた人生を尊重し、施設生活のあらゆる場面で活用している。病院・福祉サービスからも話を聞いている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	今現在に本人のできること、したいこと、楽しみ等を日々の生活から把握し、チームで共有し、ケアに活かせるように努めている。毎日の生活の様子や言動を記録し現状の把握に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、職員全員が参加するケア担当者会議を行いケアプランに対しての評価及び生活上の困り事の抽出を行っている。その内容を踏まえた上で、モニタリングを行いケアプランの作成に役立っている。	計画の作成、見直しなどの一連の流れを各担当を中心に行い、日常の申し送りや職員会議の場をもって、チーム全体での意見が反映できるように取り組んでいる。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	センター方式の24時間シートを応用した専用の記録用紙に手書きで生活の様子・状態・言動等々気づきを記録に残している。そこで記した内容を職員間で共有し内容を振り返りサービスの向上に役立っている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在行っているサービスの提供を軸に訪問診療や訪問歯科診療、居宅療養管理指導、訪問看護などの多職種と協働して、利用者を多種多様な専門職の力を使い支援している。			

自己	外部	項目	自己評価	本館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の為外出や外部との接触を極力自粛している現状にある。運営推進委員には近況を報告しており、コロナ禍以前の状態にいつでも戻れる関係づくりは継続している。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望を尊重したかかりつけ医の選択ができる様に支援している。かかりつけ医による往診や家族病院受診等の連携体制も取れている。病院受診時は適切な処置ができるように情報提供を行っている。			
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	みやざき訪問看護ステーションと医療連携を取っている。24時間のオンコール体制と週一回の健康観察、緊急時の相談助言をもらっている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には、医療機関に情報提供を行い、入院期間中も定期的に病院関係者と情報交換を行い退院に向けた支援ができるように努めている。病院関係者との良好な関係性づくりに努めている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所契約前に当事業所はターミナルケアを実施しないことを伝え納得して頂いた上で入居契約をしている。また、重度化した場合には、施設、家族、医療機関で話し合いを行いその時に必要なサービスが適切に受けられるように支援している。		現在、事業所としては看取りの介護を行っていない。適宜主治医や家族と意思確認とその共有を行い、適切な医療の提供ができるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時などに適切な対応がとれるよう定期的に施設内研修をしている。常日頃から利用者の平時の状態を把握しておくことで、職員が異変に早期に気付けるように努めている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	本年度は、コロナ禍の為避難訓練は実施できていない。地域の防災拠点となるように太陽光発電、蓄電池、災害協力井戸への登録等を行い開放できる防災整備を整えている。			

自己	外部	項目	自己評価	本館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格、生活歴などを把握し、その人の誇りを損ねないように配慮している。研修会や全体会議では日々のケアを振り返り人格を尊重した介護ができるよう努めている。	個々の生活の記録をこまめに行い、本人の言動や発言が認知症の症状か元来の性格かなどの把握に努めている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いを引き出せるように日々信頼関係の構築に努めている。言葉がうまく出ない方でもその人の行動表情から思いをくみ取れるように努めている。日常生活の中で好みや希望等をできるだけ尊重し自己決定できるよう支援している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活のリズムやペースに合わせたケアを行いできる限り希望に沿った生活ができるように支援している。日々の状態に合わせて、食事・入浴時間等の調整を行い、毎日の暮らしをゆっくりと希望にそって過ごせるようにしている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みを大事にし、なるべく本人に衣服を選んでもらえるように働きかけている。化粧やスキンケアなどの美容にも力を入れている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下膳は、利用者同士で協力し合い行っている。3食とも手作りで、定食ばかりでなくパン食やパスタなど一般家庭で食べられるような食事が提供できるよう工夫している。	利用者のその時の気持ちや能力に合わせて、献立を決めたり、食事の準備、片づけを利用者や職員と一緒にするなど、食事が楽しみなものになるよう取り組んでいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量、体重の増減を記録に取り過ぎがないように支援している。利用者の好み等をご家族、ご本人より聞かせて頂き、しっかりと栄養や水分を摂って頂けるよう支援している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行っている。本人の有する能力に合わせ、声掛け、仕上げ磨き、介助と使い分け、口腔内の清潔を保てるように支援している。			

自己	外部	項目	自己評価	本館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、プライバシーに配慮しながら適宜声掛けや誘導を行い極力失敗をしないように支援している。全利用者がトイレで心地よい排泄が出来る様に支援している。	こまめな声掛けや定時誘導を行うことで、排せつパターンを把握し、リハビリパンツの使用をやめたり、全利用者がトイレでの排せつを行えるように支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝ヨーグルトを提供したり、牛乳を提供し腸内環境を整えるように努めている。また適度な運動ができるように毎日体を動かす機会を設けている。水分を積極的に摂って頂けるよう工夫している。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間帯や曜日はある程度決められた日時になっているが、その中でも融通性をきかせられるようにしている。本人の羞恥心や億劫さ等も理解しながら本人がリラックスして入浴が出来るよう入浴前の声掛けから工夫している。	週2～3回の入浴が行えるように、本人の気分や意向に合わせて入浴ができるように支援している。入浴を拒む場合は翌日入浴を行うなど、個々に沿った支援に努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中に活動的に過ごしていただき夜間はしっかり睡眠がとれるように支援している。毎日交替で布団の天日干しとシーツ交換を行い、居心地の良い居室作りと安眠出来る環境づくりを心掛けている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬事情報をいつでも閲覧できるようにしている。内服変更があった時は起こりうる副作用などを周知している。また本人の状態を記録に残し、医療機関にも情報提供ができ、適切な内服管理ができています。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとりのできる事できない事を見極めながら生活に必要なお手伝いを楽しみながらしてもらっている。日常における掃除・洗濯等で、力を発揮して頂くなど一人ひとりがその人らしさが引出せる様な支援をしている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為外出は制限をさせてもらっている。利用者一人ひとりの状態や体調にあわせて中庭などでの外気浴を行っている。平常時には、出来る限りご家族の協力を得ながら、外出・外泊が出来る様に支援している。	以前は近隣の散歩を職員と一緒にいたり、家族の支援を受けながら外食や四季を感じる外出を行っていた。現在は感染症対策のため、控えている。		

自己	外部	項目	自己評価	本館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族からお小遣いを預かり施設で管理している。ご本人にはいつでも使えるということをお話し理解して頂いている。お小遣い帳を作成し、定期的にご家族に確認して頂いている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族やご友人から電話や手紙があった場合は本人に取り次いだり手紙のやり取りができるように支援している。オンライン通話を活用し、顔の見える会話が出来るよう支援している。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天窓から光を入れたり、室温を調整し、常に快適な生活空間を提供できるようにしている。また、季節を感じてもらえるように飾りつけなどの工夫をしている。生活音が聞こえるようにし居心地の良い空間づくりに努めている。		要所にソファと椅子を配置し他の方と時間が共有できる空間づくりや一人でいたい時に座れるソファを配置するなど居心地のよい共用空間づくりに取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールやリビングを自由に行き来できるようにし一人で読書をしたり数人でテレビを観たり、その時の気分に合わせて思い思いの時間が過ごせるようホーム内の要所に数人がけのソファや椅子などを配置している。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた馴染みの家具や本人の好みの物を用意していただき、居心地の良い空間になるようにしている。転倒や怪我、異食の恐れがあるものを除き、本人・ご家族の希望を尊重している。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の残存機能を考慮し、補助器具などを活用しながら安心・安全な生活が送れるよう支援している。できる事を奪わず自立した生活が送れるよう配慮している。			